



支援員だより

発行者：山口県・公益財団法人山口県ひとづくり財団

もくじ

- P 1 研修会講師寄稿
- P 2 講座講師寄稿
- P 3 自然保護課からのお知らせ
- P 4 環境学習推進センターから

研修会講師寄稿

昨年度、支援員研修会の講師をお願いした先生に、寄稿していただきました

変わりゆく海

環境省委嘱 自然公園指導員 藤本 正明

私が初めて周防大島の二ホンアワサンゴの生息する海に潜ったのは、2006年の5月でした。空気の入ったボンベを背負ってゆっくり見る海の中の世界。目の前を動き回る魚たちの生き生きとした目、そして美しい海の中の景色など今でもはっきり覚えています。あれから15年が経ちました。そのとき見た海の中の様子は今ずいぶん変わってきています。

その一つは、海の生き物たちを育む海藻が減ってきたことです。その原因として、魚による食害、有機物や泥の増加や堆積、貧栄養化などが論じられていますが、はっきりしたことは分かりません。下記の画像は二ホンアワサンゴが群生する水深6mの岩を撮影したものです。2015年には生えていたアラメやホンダワラなどの海藻が、5年経った2020年には、ほとんど無くなっています。また、そこに多数生息していた二ホンアワサンゴも昨年秋の大量死でほとんどその姿が見られなくなりました。私がここに潜り始めた2006年には岩が見えないほどびっしりと海藻が生えていました。



2015年10月



2020年10月

2つめは、冬の海水温が上昇し、そこに棲む生物が変わってきたことです。昨年の冬の水温は2006年と比べて2℃くらい高くなり12℃で推移しました。そのため、今までは冬になると姿が見られなくなっていた熱帯魚のキンチャクダイの幼魚が二ホンアワサンゴの生息する海で冬を越してしまい、とうとう夏には成魚になりました。



越冬したキンチャクダイ成魚

3つめは、私が15年間観察している二ホンアワサンゴがその間に増え続け、広さは当初の5倍にも広がり3,000㎡、10万個になったことです。3,000㎡の広さとは小学校のプール9つ分です。このまま増え続けるとこの海が二ホンアワサンゴの花園になるのではと思っていましたが、昨年秋に大量に死んでしまいました。被害は10万個の内の6~7割で、その原因は分かっていません。現在その状況は一応収まっていますが、これから先どのようなことになるのか気がかりです。このような事が繰り返し起きると、やがて周防大島の二ホンアワサンゴはいなくなってしまうかもしれません。



大量に死んだ二ホンアワサンゴ

この他にも変わってきたことはありますが、これから先も地球温暖化などの影響を受けて変化していくことと思います。それを皆さんにお伝えするのが私たち海に潜る者の役目だと思っています。



「海の花束」二ホンアワサンゴ

山口県の人口減少は、生物多様性に影響する

山口かえる米倶楽部 田原 義 寛

2020年の国勢調査の結果が発表され、山口県では2011年から2020年の10年間で、11万3800人余り、約8.5%の人口が減少していることがわかりました。県の人口が減少すると、山口県の里山の生物多様性は衰退します。

なぜなら、里山の生物多様性は人の営みと自然が織りなす環境に産まれるものだからです。丘陵性の低い山々が連なる山口県は、西中国山地から瀬戸内海や日本海、あるいは東シナ海に向かって、中山間地が広がり、生物多様性の豊かな里山があります。

ところが、「レッドデータブックやまぐち」の改訂にあたって、3年間、山口県内の両生類を調査した時には、本来、生物多様性が豊かなはずの里山の、かなりな変容を目にしました。特に中山間地では、人口減少に伴う、限界集落が多数あり、耕作放棄地があちこちに広がっています。

山口県の両生類については、オタマジャクシが水田やため池など、里山に暮らす種が3分の2以上に及ぶため、里山荒廃の影響は甚大です。

また、農村部の人口減少で、個人で賄いきれなくなった農地は、大規模農業を行う法人等に預けられている所もあります。大規模農業では、生産性や、効率性、そして換金性の高い作物へ転換を図る過程で、本来、地域の農作物と一緒に育まれていた、多様性豊かな生物の命の切り捨てが起きています。

実際、我が家の周辺の田んぼでも、農業法人に切り替わった年から、田んぼの半分が稲作から麦作へ転作が図られ、カエルが産卵する場所が無くなった結果、カエルの数が3分の1以下に減少する事態が起きています。

さらに、田んぼの水が頻繁に干され、また、除草剤の影響で水草も生えない、稲以外の水生生物全てが死滅した「砂漠化した水田」も多数見られるようになりました。

羽が生えている生物は別ですが、大多数の生物、特に自然界の生物の子供たちは、自分の住んでいる里山の環境が悪化したからといって、すぐに別の土地へ引っ越しできるわけではありません。

そもそも、人間が乗る様な車は無いし、公共交通機関も無い。

トノサマガエル

ほとんどが小さな体で徒歩移動です。両生類のオタマジャクシも、水がある範囲内でしか移動ができません。

そうして、人間のようにお金を使って、お店で食べ物を買うこともできないので、基本的に身の回りにある資源を使って、自給自足の生活を行っています。

こうした、自給自足の一生を過ごす生き物にとって大切なことは、各成長ステージで安全・安心に暮らせる里山の環境と、様々な生き物が多様な関係を結び、生物の多様性が高い環境です。

人間の世界も色々と大変なことは多いですが、我々と共に生きる様々な小さき命のことも気にかけて、守ることがとても大切な時代になったと感じています。



◆「生物多様性」について考えてみませんか。

～ 生物多様性条約締約国会議 (COP15) が開催される年です ～

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。生命は一つひとつに個性があり、全て直接に、間接的に支えあって生きており、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとされています。いま、その生物多様性が危機に直面しています。政府、企業、市民などすべての人の取組みが重要です。

① 生態系の多様性

森林、里地里山、河川、湿原、干潟、サンゴ礁など色々な自然があります。



ブナ林 (C)森田敏隆



四万十川 (C)草野香子



サンゴ礁 (C)鍵井靖章

② 種の多様性

動植物から細菌などの微生物にいたるまで、いろいろな生きものがいます。



ミツバチ (C)西口美春



チシオタケ (C)森田敏隆



アオウミガメとギンガメアジ (C)鍵井靖章

③ 遺伝子の多様性

同種でも異なる遺伝子を持ち、形や模様などに多様な個性があります。



アサリ (C)ふわ しん



ナミテントウ (C)三木 昇

※写真引用：
環境省生物多様性ウェブサイト

生物多様性条約とは…

世界全体で生物多様性の問題に取り組むため、1992年5月に採択され、1993年12月に発効されました。

- 【目的】
- 生物多様性の保全
 - 生物多様性の構成要素の持続可能な利用
 - 遺伝資源の利用から生ずる利益の公正で^{公平}な配分

◆生物多様性の保全に向けた取組みと目標

生物多様性条約締約国会議(COP10) (名古屋で開催)

- ビジョン：2050年までに「自然と共生」する世界を実現
- 愛知目標：2020年までの20個の目標設定

生物多様性国家戦略 2012-2020 を策定

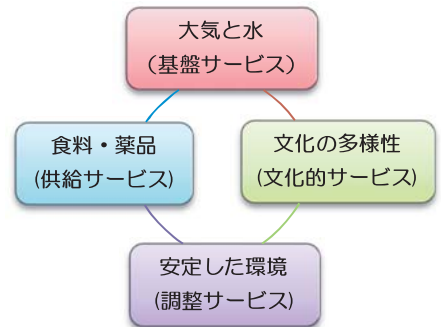
※山口県では生物多様性やまぐち戦略を策定(2013.10)

生物多様性条約締約国会議(COP15) 2021.10 中国

- テーマ「地球上のすべての生命が共有する未来の建設」
- 生物多様性の次の国際的目標とルールを決定する

「生物多様性のめぐみ」

私たちの生活は生態系の恵み(生態系サービス)により支えられています。



いま、生物多様性の危機

◆第1の危機

開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少

◆第2の危機

里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下

◆第3の危機

外来種や化学薬品の持ち込みによる生態系のかく乱

◆第4の危機

地球温暖化による世界的な危機

日本は世界の生物多様性に影響を与えています。

- ※温室効果ガス排出量世界5位
- ※木材の8割、食料の6割を輸入
- ※大量のペットを輸入

ほとんどの愛知目標についてかなりの進捗が見られたものの、20の個別目標で完全に達成できたものはない。

→次の目標と対策にはこれまで以上の真摯な取組みが求められます。

政府、企業、市民などすべての人の参加が重要です。

2010

2021

第2回希少野生動植物種保護支援員研修会

12月12日(日)

13:00~15:30

周南市八代「鶴いこいの里交流センター」

八代のツルを観察してみませんか！

研修会の内容

- | | |
|------------------|-------------------|
| 講義① 周南市八代のツル保護対策 | 講師 周南市教育委員会 増山雄士氏 |
| 講義② 支援員の役割等について | 講師 山口県自然保護課職員 |
| 野鶴監視所にてナベヅル観察会 | 指導 鶴いこいの里交流センター職員 |

※ 支援員研修会への参加募集については、10月にHPやチラシでお知らせする予定です。

【お知らせ】

令和3年6月12日(土)に予定しておりました本年度第1回支援員研修会(秋吉台の自然観察会)は、新型コロナウイルス感染症拡大防止集中対策による県からの指導で、開催を10月16日(土)に延期しています。(参加募集はすでに終了しております。)

山口県ひとづくり財団 県民学習部 Facebook を開設しました！

山口県ひとづくり財団 県民学習部では、5月より新たに「公益財団法人山口県ひとづくり財団 県民学習部 Facebook」を開設しました。

山口県民の学習活動および交流を促進する拠点として、県民学習部が企画・実施する様々な事業について発信しています。皆様のアクセスをお待ちしています。



公益財団法人山口県ひとづくり財団
県民学習部 Facebook
<https://www.facebook.com/hito21.kengaku>



※「環境学習推進センターFacebook」は上記のページに移行・統合しました。開設以来、多くの方にご利用いただきありがとうございました。

発行元： (公財) 山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター

〒754-0893 山口市秋穂二島 1062

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720 E-mail: kankyo.c@hito21.jp

<https://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/index.php>



地域ESD活動推進拠点
Education for Sustainable Development